



戦没者の霊に向かい平和を願う

第43回県戦没者追悼式

戦後、69回目の終戦記念日を迎えた8月15日、第43回県戦没者追悼式が市民会館崇城大学ホールで開かれました。県内の戦没者は約5万8千人。参列した遺族ら約1,300人が、悲惨な戦争で命を落とした肉親らの冥福を祈りました。

英霊への献花のあと、将来を担う世代を代表して、益城中央小学校4年の井上海翔くんが「平和を願うみんなの心が一つになって、笑顔で手を取り合える日が来ると信じています」と恒久平和を願いました。



戦没者の英霊に向かい平和への願いを読み上げる井上くん



団体戦で取組を行う熊本県勢(九州ブロック競技大会)

町内の西本みな代選手が大健闘

九州ブロック相撲競技大会ほか2大会が町内開催

町相撲場で8月17日、平成26年度九州ブロック相撲競技大会が開催されました。

各県代表の強豪が集う中、熊本県勢は少年男子が優勝、成年男子が3位という好成績を獲得しました。

また、同日開催された全九州女子相撲選手権大会では、町内から出場した西本みな代選手(田原)が大健闘。1チーム3人で構成される一般女子の団体戦と、個人戦一般軽量級(50kg未満)に出場した西本選手は、ともに準優勝に輝きました。

「チーム上村のきせき」で日本一

第38回全国高等学校総合文化祭弁論の部

7月30日から茨城県で開催された第38回全国高等学校総合文化祭弁論の部で、県立東稜高等学校3年の上村和代さん(古閑)が見事、日本一に輝き、最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞しました。

全国の各地区代表の高校生66人が出場する中、上村さんは、祖母の介護で日に日に深まる家族の絆を、「お互いが、お互いを思いやるとき、人はチームになるんです」と自らの体験として、7分間の持ち時間で会場のみみんなの心に訴えました。



文部科学大臣賞を受賞した上村さん(東稜高校前)

今月の輝く笑顔

